



ポジティブ行動支援

～「問題行動を減らす」から「望ましい行動を増やす」～

子供の問題行動に直面した時、多くの先生は「問題行動を減らそう」と考えるでしょう。こうした考えで対応すると、どうしても問題行動にばかり目が行ってしまい、注意・叱責や説教、ペナルティなどのネガティブな対応に傾いてしまいます。

そこで、「問題行動を減らそう」と考えるのではなく、「望ましい行動を増やそう」と考えてみましょう。例えば、授業中に人の話を聞くことが苦手で離席をしてしまう子供であれば、「離席を減らそう」と考えるのではなく、「座学の時間を減らして活動できる時間を多めに取り入れる」と考えます。問題行動を減らそうと考えなくても、望ましい行動を増やすことで自動的に問題行動を減らすことができます。

子供の問題行動には必ず心のメッセージが隠されています。子供の心に目を向けて、子どもの望ましい行動を、ポジティブな方法で支援していくことが大切です。ぜひ、「困った子供」ではなく「困っている子供」の視点をもって学級経営や授業づくりを考えてみてください。



『ウェルビーイング』を育む健康教育

～心身の健やかな成長のために～

児童生徒の心身の健康は、学習の基盤であり、生涯の幸福を支える土台になります。これからの健康教育は「知識」の習得に加え、自ら健康課題を解決する「ヘルス・リテラシー」の育成が重要です。

生活習慣の確立

食事・運動・睡眠を整え、ICT活用に伴う健康課題へ主体的に対処する力を養う。

心のレジリエンス

困難を乗り越える「回復力」を育み、SOSを出すスキルを「生きるための強さ」として伝える。

組織的な対応

全教職員が連携することで、学校全体を安心できる居場所にする。

子供たちのウェルビーイングを育むのは、先生方の笑顔です。先生方が心身をケアされ、健やかに活動されている姿こそが、子供たちにとって最高のロールモデルになります。次年度に向けて慌ただしい日々が続きますが、子供たちへの日々の見守りと、養護教諭や専門家との組織的な連携により、子供たちが「自分の心と体を大切にできる力」を育めるよう、取り組んでいきましょう。

「ひなたの学びフェス」研究指定校の発表

2/10（火）、宮崎大学において「ひなたの学びフェス」が開催されました。

当日は、管内3校の子どもの学び研究指定校より1年間の研究の成果等について、具体的で分かりやすい発表を行っていただきました。また、参加された先生方から研究内容に関するご意見やご質問、温かい感想をいただき、次年度の研究に向けた示唆を得る機会となりました。ありがとうございました。

なお、今回の発表につきましては、後日オンデマンド配信する予定です。



【発表・協議の概要】

	国富町立木脇中学校	日南市立油津中学校	新富町立富田中学校
研究主題	自己調整学習スキルを身に付け、自立・自走できる生徒の育成	「三つの幸」から未来を作り出すことのできる子どもの育成	自ら学び、自らの力を伸ばしたいと考え、行動できる生徒の育成
協議内容	日頃、生徒に委ねている学習や生活の場面を共有し、「学びに向かう力」を育てるための様々な工夫や取組について話し合いました。	油津中学校の授業改善や組織的な取組を踏まえ、自校で取り入れられそうな実践について意見交換を行いました。	富田中学校の生徒の変容や教師の実践を踏まえ、生徒の主体的な学びを促すための授業づくりについて、話し合いました。

問合せ先：中部教育事務所 TEL (0985) 44-3322
(担当：瀨砂) 代表アドレス chubu-kyoiku@pref.miyazaki.lg.jp

◆もしよろしければこちらの二次元コードを読み取っていただき、「2月号」の御感想をおきかせください。



中部教育事務所は、「ひなたの学び」を推進しています。